

古地磁気・岩石磁気研究会 活動報告

2010年 夏の学校幹事 宇野康司（岡山大学）

平成22年8月29日～31日に、岡山県加賀郡吉備中央町の国立吉備青少年自然の家にて、2010年古地磁気・岩石磁気夏の学校が開催された。学生28名を含む46名が参加し、16件の口頭発表と、18件のポスター発表が行われた。1日目午後には「IODP 試料の古地磁気・岩石磁気」および「地磁気・月磁気」についての口頭発表が行われた。2日目午前と3日目午前にはそれぞれ「環境磁気学」と「岩石磁気学」を中心とする口頭発表が行われた。いずれの発表についても活発な議論や指摘が交わされ、普段の学会とはまた異なるくだけた雰囲気の中、よい情報交換の場となった。夕食後に行われたポスターセッションでは、半数以上が学生の研究結果のポスターであったこともあり、学生同士が積極的にポスターを訪れ議論し合う場面も多く見受けられた。

2日目午後には会場を離れ、会場の北西に位置する石灰岩地域（草間台）の地形と地質の観察を行った。はじめに鍾乳洞である井倉洞を訪れ、石灰岩が形成する多様な地形を楽しんだ。特に地下滝である「地軸の滝」には、その名称もあってか、大きな歓声が上がった。次に、石灰岩が作る天然橋である羅生門を訪れた。これは岡山県から唯一、日本の地質百選に選ばれた地域である。これは、もともと鍾乳洞であった地域の天井が崩落し、その一部がアーチ状となって残されたものである。現地解説の看板にある「鍾乳洞のなれの果ての姿」という記述に参加者は皆納得した。

また、1日目の口頭発表終了後に分科会名称を変更する可能性についての話し合いが持たれ、これまでの「古地磁気・岩石磁気研究会」の名称を「地磁気・古地磁気・岩石磁気研究会（英語名称 Geomagnetism, Paleomagnetism, and Rock-magnetism）」へ変更する案についての賛成が得られた。これにより主磁場ダイナモ・海洋磁気異常・空中磁気異常の研究者の方々にも、夏の学校をはじめとする分科会活動に積極的に参加していただけるように呼び掛けることが可能になると期待される。

次回2011年は、熊本大学の望月伸竜さんを世話人として開催されることが決まった。

